

公正な組織では作業者の安全行動意思が高まるか

職業的自尊心 - 安全行動意思モデルの拡張

○大谷 華・芳賀 繁

(立教大学)

キーワード：職業的自尊心、組織的公正、安全行動意思

Can organizational justice enhance the workers' intention of carrying out safety actions mediated by occupational pride?

Hana OYA, Shigeru HAGA

(Rikkyo Univ.)

Key Words: Occupational Pride, Organizational justice, the intention to carry out safety actions

目 的

産業現場の職場安全のために人間工学的対策がうたれ、一定の効果をあげてきた。安全対策の次なる展開として、大谷・内藤・芳賀(2011)、大谷・芳賀(2012)は「職業的自尊心 - 安全行動(意思)モデル」を用いて、職業的自尊心が安全態度を介して安全行動意思に影響を及ぼすプロセスを検証した。

安全態度では、たとえ周囲が行ってなくても指差し確認を行うなど個人々の安全行動に積極的な「個人行動」因子と、会社やシステムによって仕事場の安全は守られると考える「システム」因子が抽出された。業務推進意欲でも2因子が抽出され、「工程厳守」因子では工程を厳守するために手順や過程を軽視する傾向が、また「技量工夫」因子では作業者が効率・品質を追求するなかで達成感や満足感を得ていることが示唆された。

本研究では、職業的自尊心を高めることが想定される「組織的公正」、および職業的自尊心と関連が深いと思われる「組織コミットメント」を仮説モデルに導入し、直接には操作しづらい職業的自尊心を高める方策を検討する。

方 法

2013年10月、製造業工場勤務の主任クラスおよび一般社員407名に質問紙調査を実施した。質問項目は、職業的自尊心、組織コミットメント、組織的公正、業務推進意欲、安全態度、安全行動に対する主観的規範、安全行動の知覚された制御可能性、安全行動意思、デモグラフィック項目であった。

結 果

各要因の確認的因子分析を行い、ついで尺度の信頼性を確認した($\alpha = .64 \sim .90$)。各要因の観察変数を5項目以下とした構造方程式モデリングにより分析した(図1: 有意なパスのみ掲載)。適合度指標値は十分とはいいがたいが、要因間に先行研究と同様の関連性が確認されたため、本モデルは検討に値するものと考え、以下の知見を得た。

(1) 組織的公正が職業的自尊心と組織コミットメントを高めていた。(2) 職業的自尊心と組織コミットメントが業務推進意欲に与える影響に機能的な違いがみられた。職業的自尊心は「技量工夫」意欲を高めるとともに、スピードを優先する「工程厳守」意欲を抑制する効果があった。一方、組織コミットメントは「技量工夫」意欲を高めていたが、「工程厳守」意欲には影響がなかった。(3) 「技量工夫」意欲が「個人行動」重視の安全態度を高める一方で、「工程厳守」意欲は「個人行動」態度を低めていた。(4) 「個人行動」安全態度は自分は安全行動がとれるという制御可能性知覚の「主体的行動」因子を高めるが、一方で「主体的行動」による制御可能性知覚の高さが「個人行動」態度を抑制する傾向もみられた。(5) 職場で安全行動が評価されるという「主観的規範」は職場の「組織的公正」に強く影響されていた。

考 察

分析から、安全行動意思を高める職業的自尊心および組織コミットメントの向上に寄与する要因として、組織的公正を考えることの妥当性が示唆された。また、職業的自尊心が、業務推進意欲の中でも産業現場のスピード圧力を受けて生じる安全行動軽視の傾向に対して特異的に抑制効果を持つことが確認された。職場の組織的公正知覚を高める施策を講じることで、安全行動に資する職業的自尊心を高める方策が考えられる。

引用文献

- 大谷華、内藤岳、芳賀繁(2011). 安全行動における職業的自尊心の役割 第75回日本心理学会大会論文集, p. 1220
大谷華、芳賀繁(2012). 安全行動における職業的自尊心の役割(2): 計画的行動理論を用いた職業的自尊心-安全行動意思モデル, 産業・組織心理学会第28回大会発表論文集, pp. 248-251

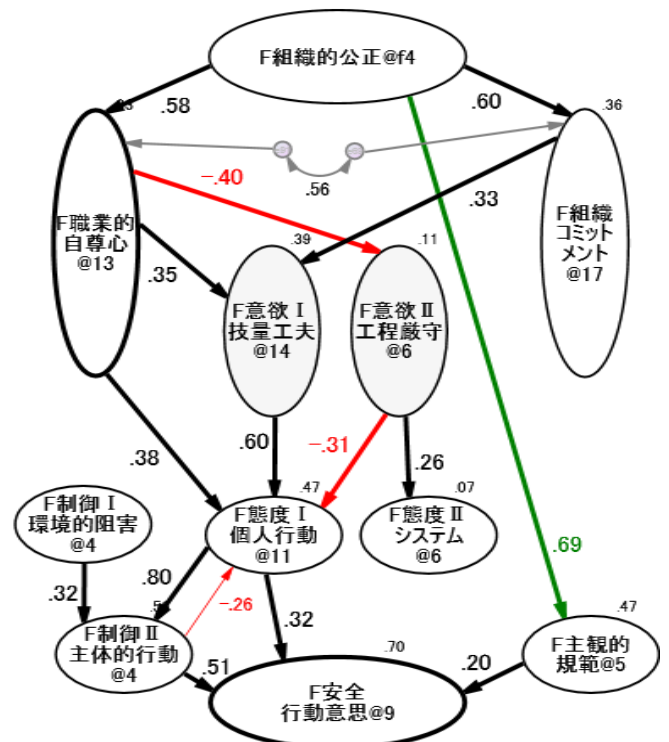


図1 職業的自尊心 - 安全行動意思モデル